

～KinKi Kidsと他のジャニーズ系アイドルの違い～

目次

- ① 研究動機 P.2
- ② 研究する前に予想していた答え P.2
- ③ 調査方法 P.2
- ④ 調査結果 P.3-11
- ⑤ 調査結果を基に分析 P.12
- ⑥ まとめ P.13

① 研究動機

このテーマを選んだきっかけはKinKi Kidsのファンであり、KinKi Kidsはよくジャニーズっぽくないと言われているので、どこが違うのを探してみようと思うことです。

② 研究する前に予想していた答え

同社のアイドルとそんなに違いがないと思いました。

③ 調査方法、手法

ネットでKinKi Kidsと他のジャニーズアイドルの資料を探します。

④ 調査結果

—KinKi Kidの紹介—

メンバー：堂本光一、堂本剛

初の関西（近畿地方）出身のグループであります。2人とも同じ1979年生まれましたが、学年としては光一の方が剛よりも1つ上になります。また、2人の姓は同じ「堂本」だが縁戚関係はなく、全くの他人です。1997年「硝子の少年」からデビューしました。

グループ活動：

1991年5月5日光GENJIのコンサートを観に来て横浜アリーナで出会った2人は、同時に事務所入りを決めた後も、同じ苗字ということで当初から揃って活動することが多かったです。

1992年8月23日、13歳の時に初めて「Myojo」の取材を受け、1992年11月号で「関西からきた新入生」として紹介されました。

初めてのステージは光GENJIのコンサートで、光GENJIがまだ登場する前、客席の明かりもついている中、2人でステージの真ん中にバケツを持っていってその場で花火をするというものでした。

主に光GENJIやSMAPのバックで活動していたが、正式なグループ名が決まる前までは、「ジャニーズ関西組」、「堂本ブラザーズ」、「W堂本」など様々な呼び名が使われていました。

1992年12月31日放送の「第43回NHK紅白歌合戦」でSMAPのバックとして出演した際、2人で「KANZAI BOYA（カンサイボーヤ）」という名前で紹介されました。

1993年4月4日「キスした?SMAP」第1回放送で、正式に「KinKi Kids」というグループ名が発表されました。

1994年12月31日デビュー前日本武道館でファーストコンサートを行いました。

音楽活動として二人は、デビュー以降に発売したシングルがすべてオリコン初登場1位という大記録を持っている。

1997年のデビューシングル『硝子の少年』は松本隆作詞・山下達郎作曲。オリコン週間ランキングでは、初週で31.5万枚を売上げ、累計で178.6万枚と1曲目でいきなり大ヒットを飛ばした。

以後も『愛されるより愛したい』『全部抱きしめて / 青の時代』『フラワー』などがミリオンセラーとなった。そして「KANZAI BOYA」まで42曲すべてがオリコン1位を記録しています。「会いたい、会いたい、会えない。」までの40作連続1位記録がギネスに登録されています。

「LOVE LOVEあいしてる」で吉田拓郎や坂崎幸之助 (THE ALFEE) の指導でギター演奏に取り組みましや。また、多くのミュージシャンとの親交を深めるなどその後の自身の音楽活動に大きな影響を与えました。KinKi Kids自分で初めて作ったシングル「好きになってく愛してく」では日本のアイドルグループとしては初めて自らの作詞・作曲による楽曲でのオリコンランク1位を獲得した。

KinKi Kids名義で発表しているシングルやアルバムにもそれぞれのオリジナルソロ曲や合作が収録されていますが、各々が本格的にソロ活動を開始しソロデビューした後、表現の場をそちらに移行したため、KinKi Kids名義では主に2人の合作のみ発表されています。

堂本光一のソロ活動：

2000年からSHOCKというミュージカルの主演を務めています。

2005年から自身が脚本・演出・音楽全てを手掛けています。

2008年スタッフ・出演者一同が第33回 (2007年度) 『菊田一夫演劇大賞』を受賞しました。

2020年20年にわたり『SHOCK』シリーズを牽引してきた功績に対して第45回菊田一夫演劇大賞を受賞しました。

2006年シングルの発売でソロデビューしました。

堂本剛のソロ活動：

2002年5月29日シングル「街/溺愛ロジック」で堂本剛名義でシンガーソングライターとしてソロデビューしました。

2005年冬に「ENDLICHERI☆ENDLICHERI」というプロジェクトを始動させました。

2008年は「244 ENDLI-x」というアーティストネームで活動しました。

2009年春、新たにアーティストネーム「剛 紫 (つよし)」として新しいプロジェクト「美我空 (びがく)」を始動しました。

2011年「SHAMANIPPON」という新しいプロジェクトを始動しました。

2011年10月アルバム「Nippon」で欧州デビューし、KinKi Kidsよりも早い海外デビューとなりました。

2017年「ENDRECHERI」というプロジェクト名が発表され、「SUMMER SONIC 2017」や「イナズマロックフェス2017」への出演が紹介されていました。

ージャニーズ他のアイドルー

SMAP

1991年デビュー、2016年12月をもって解散しました。活動は28年間に及び「国民的グループ」と称されていました。

音楽活動基本的にはグループでしていました。

中居正広：1986年ジャニーズ入社、1989年俳優デビューしました。1997年25歳での白組司会は番組最年少記録となりました。その後、通算6度司会を担当していました。ソロ曲はSMAPのアルバムに収録されています。個人名義と「N. マッピー」名義と「なかいさん」名義で楽曲制作していました。2020年退社し、芸能事務所のんびりなかい代表取締役社長になりました。

木村拓哉：1987年ジャニーズ入社、俳優として主演する多くのテレビドラマを高視聴率に導き、度々「視聴率男」と形容されます。SMAP解散した後、2020年個人アルバムが出ました。

稻垣吾郎：1987年ジャニーズ入社、1989年ドラマデビューし、1990年映画デビューしました。近年舞台俳優としても活躍しています。SMAP解散した後、「新しい地図」という活動名義で草彅剛と香取慎吾と3人で再活動し始めました。

草彅剛：1987年ジャニーズ入社、2001年韓国でソロデビューしました。ソロ活動は主に俳優です。SMAP解散した後、「新しい地図」という活動名義で草彅剛と香取慎吾と3人で再活動し始めました。

香取慎吾：1987年ジャニーズ入社、11歳でメンバーの中では最年少でした。慎吾ママ名義慎吾ママ名義で発売した「慎吾ママのおはロック」デビューシングルであり、ミリオンセラーを達成する大ヒットとなりました。SMAP解散した後、「新しい地図」という活動名義で草彅剛と香取慎吾と3人で再活動し始めました。

森且行：1987年ジャニーズ入社、1996年オートレーサーへ転身する為、SMAPを卒業。同時にジャニーズ事務所を退社、そして芸能界を引退しました。

V6

1995年デビュー、20th Century（通称トニセン）と、Coming Century（通称カミセン）に分かれて活動することもあります。

音楽活動基本的にはグループでしています。

坂本昌行(トニセン)：1988年ジャニーズ入社、デビュー前舞台で初出演でした。ソロ活動は主に舞台です。ソロ楽曲はV6とトニセンのアルバムに収録されています。

長野博(トニセン)：1986年ジャニーズ入社、俳優として舞台とドラマで活躍しています。ソロ楽曲はV6とトニセンのアルバムに収録されています。

井ノ原快彦(トニセン)：1988年ジャニーズ入社、俳優として舞台とドラマで活躍しています。ソロ楽曲はV6とトニセンのアルバムに収録されていますが、自作曲もあります。

森田剛(カミセン)：1993年ジャニーズ入社、近年主に舞台で活躍しています。期間限定ユニットで2枚シングルが出たことがあります。

三宅健(カミセン)：1993年ジャニーズ入社、俳優として舞台とドラマで活躍しています。ソロ楽曲はV6とカミセンのアルバムに収録されています。

岡田准一(カミセン)：1995年ジャニーズ入社、同年デビューし、ジャニーズ事務所史上最短でのCDデビューを果たします。ソロ活動は主にドラマです。木更津キャッツアイ feat. MCUというユニットでシングルが出たことがあります。ソロ楽曲はV6とカミセンのアルバムに収録されています。

嵐

1999年ハワイのクルーズ客船にてデビュー記者会見で結成、およびCDデビューが発表されました。2020年12月31日を以降で活動休止予定です。

大野智：1994年ジャニーズ入社、Junichi&JJrの一員として「0点チャンピオン」でCDデビューしたことがあります。グループで振り付け役であります。ソロ曲は嵐のアルバムに収録されています。2006年ソロコンサートを行われました。芸能活動と並行して創作活動を続けています。

櫻井翔：1995年ジャニーズ入社、嵐の曲のラップは基本的本人が書いています。ソロ曲は嵐のアルバムに収録されています。2006年ソロコンサートを行われました。2006年からnews zeroの月曜日ニュースキャスターを担当しています。

相葉雅紀：1996年ジャニーズ入社、嵐のメンバーの中で、唯一の千葉県出身のAB型であります。ソロ曲は嵐のアルバムに収録されています。主にドラマとバラエティで活躍しています。

二宮和也：1996年ジャニーズ入社、俳優として大活躍していて、演技賞多く受賞しています。ソロ曲は嵐のアルバムに収録されていますが、作詞、作曲もしています。

松本潤：1996年ジャニーズ入社、コンサート演出担当しています。ソロ曲は嵐のアルバムに収録されています。主にドラマで活躍しています。

—KinKi Kidsの音楽に関する記事—

「KinKi Kidsの世界像 信頼関係から生まれた合作曲の歴史を振り返る」
6月17日に発売決定したKinKi Kidsの42ndシングル『KANZAI BOYA』が、話題沸騰中だ。この曲は、堂本剛がKinKi Kidsとなる前のユニット名「KANZAI BOYA」を想って突如閃いて作った楽曲。ファンクなサウンドに合わせて2人が歌とダンスを披露し、堂本光一がジャニー喜多川氏に扮する場面もあるエンターテインメント性溢れる作品となっている。

同曲の作詞作曲を剛が手掛けているように、KinKi Kidsの楽曲を剛と光一が制作することも少なくない。しかも、それらを振り返ると着実に変化し続けていることが分かる。そこで、『KANZAI BOYA』のリリースにあたり、彼らの楽曲制作の歴史を振り返ってみたい。

KinKi Kidsの2人が初めて作詞作曲を手掛けた合作曲は、9thシングル表題曲の「好きになってく 愛してく」だ。同曲は2人が出演していた『LOVE LOVE あいしてる』（フジテレビ系）内の企画から誕生した曲。光一いわく「良く言えば『全部だきしめて』のアンサーソング」と『LOVE LOVE あいしてる』内で紹介していたとおり、さわやかなJ-POPになっている。作詞を剛、作曲を光一が手掛けているが、吉田拓郎をはじめとするLOVE LOVE ALL STARSも制作に大きく関与しているとあり、フォークソングっぽさも感じられる。明るく前向きで老若男女から好かれる王道ソングであり、まだ“KinKi Kidsらしさ”は色濃くない（もちろん素晴らしい楽曲であることは言わずもがなだが）。

2017年に放送された『関ジャム 完全燃SHOW』（テレビ朝日系）で、KinKi Kidsらしさを問われた剛が「第三者が勝手に決めてるんですよね、僕らのことを。皆、その謎解きを一生懸命やろうとしてるけど、僕ら的には何も考えてない」と答えたことがあった。しかし、その番組内では名だたるアーティストたちが2人の楽曲を分析。光一自身が「（しいて言えば）何を歌っても暗い曲になるのがKinKi Kidsらしさ」と言っていたように、何も考えていない中でも溢れ出る“哀愁漂うドラマチックさ”は、確固たるKinKi Kidsらしさなのではないか。

それがより色濃く始めたのは、13thシングルの『Hey! みんな元気かい?』B面に収録されている「愛のかたまり」だろう。「好きになってく 愛してく」以来の合作曲であり、今もなおファンからの人気がとても高い曲だ。前述した『関ジャム』によれば、同曲は光一の「KinKi Kidsとしてこういう歌（ドラマチックでメロディが綺麗な曲）のほうが良いんじゃないかな」という反骨精神から生まれた曲。いわば、KinKi Kidsらしさを出していくターニングポイントとなった曲と言える。

その次の合作曲となった8thアルバム『H album -H・A・N・D-』収録曲「恋涙」も、光一の言葉の通りメロディが非常に美しい楽曲だ。光一が作った可憐なメロディに、女性目線で書かれた剛の詩が合わさり、唯一無二の世界像が広がっている。続く10thアルバム『中』収録曲「銀色 暗号」も然りだ。イントロのストリングスが壮大に広がり、軽快にリズムを刻むドラムとパーカッションが加わることで曲の物語の奥行きが深くなっていく。剛が書くある種難解な詞も雰囲気を濃くしている大きな要素の一つだろう。

その後は『好きになってく 愛してく / KinKiのやる気まんまんソング』以来のA面合作曲となった30thシングル表題曲「Family ～ひとつになること」や、20周年の節目の曲となった39thシングル収録曲「Topaz Love」と合作曲を発表していくことで、KinKi Kidsというアーティストの世界像を世の中に定着させていったのである。

『関ジャム』での特集にて、作詞で意識していることを問われた剛が「2人のときは共感が得られるようなものを書く。光一くんが何かを書く時に女性詞って少ないかもな、あんまり書かないかもしれないと思って、あえて女性詞を書いてみたりとか」と答え、光一は作曲をする時に「剛くんにこのメロディを歌ってほしいなって想像しながら作ってると思う」と語っていたことを思い出す。2人がKinKi Kids名義で曲を作る時は、お互いのことを考えながら制作しているというわけだ。

彼らが手掛けた楽曲は、KinKi Kidsの27年にもおよぶ歴史の一部であり、堂本剛、光一というフィルターを通して見た相手の姿が盛り込まれている作品だ。2人が制作した楽曲を注意深く聴くことで、KinKi Kidsというスーパーデュオのことがより深く見えてくるのかもしれない。

『関ジャム』で解き明かされた、KinKi Kidsの運命の片割れのようにぴったりと重なり合うその「奇跡」

8月27日放送の『関ジャム 完全燃SHOW』が、またしても傑作回だった！なにしろ今回は今年デビュー20周年を迎えたKinKi Kidsのふたりをゲストに迎え、彼らの音楽的魅力を関係者の証言も交えて解き明かしていくという内容だったわけだが、結果的にそれはKinKi Kidsの音楽的魅力に留まらず、「KinKi Kidsとはなにか」、「KinKi Kidsにとっての『ふたり』とはなにか」という根本的命題にまで迫る、なんとも『関ジャム』らしいディープな回になったからだ。

1997年のCDデビュー以来ミリオンセラーを連発、最新シングル『The Red Light』までの全38作品が連続オリコンチャート1位という、ぶっちぎりのギネス記録を保持しているKinKi Kidsが、日本のポップ史にその名を刻むデュオであることに異論はないだろう。そんな彼らの音楽についてしばしば言及されるのが、常にその楽曲がある種の「陰影」、「哀愁」を含んでいるということだ。デビュー曲の“硝子の少年”や“愛されるより 愛したい”的なマイナーコードのナンバーは言うに及ばず、たとえば“フラワー”のようなレゲエ調の曲にすら、そのハッピーで眩しい陽光から遮られた、日陰の湿った場所がひっそりと存在するのだ。

そんなKinKi Kidsの楽曲の特性について、番組では彼らに楽曲提供したアーティストがゲストコメンテーターとして解説していくのだが、織田哲郎はそのKinKi Kids特有の陰影、哀愁をフォルクローレの旋律に託したのが“ボクの背中には羽根がある”であると証言し、“薔薇と太陽”を提供した吉井和哉はそれを「70年代的」だと評した。また、KinKiのふたりの親友としても知られるTOKIOの長瀬智也は「ドラマティック」だと形容した。彼らのどの証言もなるほどと膝を打ちたくなるものだったし、KinKi自身も自分たちのその音楽特性を「何を歌っても暗くなる」と認めていたのも面白い。そして彼らのその認識、KinKi Kids「らしさ」への自覚とある種のプライドが生んだのが、ふたりが作詩（堂本剛）作曲（堂本光一）を手掛けた珠玉の名曲“愛のかたまり”だった……というエピソードもグッとくるものがあった。

ちなみに“愛のかたまり”は後輩のジャニーズJr.に脈々と歌い継がれている、ジャニーズの定番レパートリーとでも言うべき楽曲だ。しかし同時に、この曲は誰もが気軽に歌える曲ではないし、誰もが簡単に歌いこなせる曲でもない。ジャニーズファンが納得できる“愛のかたまり”を披露できるジャニーズは多くないし、だからこそ逆に、どこかセクシャルで陰りと湿りを帯びた声と佇まいを持つジャニーズアイドルにとっては、最良のアピール曲にもなってきた。また、これまたシンメトリー曲の定番である彼らの“カナシミブルー”も、これをシンメで歌うジャニーズアイドルには常にKinKi Kidsのような背中合わせのケミストリーを見出しちゃうのが面白い。そう、そんなこの2曲に象徴されるように、KinKi Kidsのナンバーが秘めた陰影と哀愁は、常にそこに「物語」とその裏側を追い求めずにはいられないものなのだ。ジャニーズの数多くのユニット、数多くの名曲の中でも、これはKinKi Kidsのキャラクターと彼らの楽曲の出した個性だと思う。

そして今回の『関ジャム』のもうひとつ大きなお題となっていたのが、冒頭にも書いたように「KinKi Kidsとはなにか」というさらに根本的なテーマだった。このテーマについて最初に口火を切ったのが、“カナシミ ブルー”を筆頭に数多くのKinKi曲を手掛けてきた堂島孝平だった。彼はKinKi Kidsの歌はまるで「ひとつの人格」のようで、ふたりの声の重なりが完璧すぎて、ひとりで歌っているように聞こえる瞬間があるとし、「こんなデュオは他にいない」と証言した。

ちなみに堂本剛&光一自身の証言によると、ふたりは互いの声を聴かない状態で個別にレコーディングを行い、コンサートでもイヤモニ越しに互いの声をほとんど意識しないのだという。それでも常に「だいたい合っている」（光一談）というミラクル、そしてむしろ無意識では合いすぎる、重なりすぎるから、ミックス段階で意識的にレベルをズラし、「ふたりですよ感」（剛談）を出すのだという裏話も、本当に驚異的なエピソードだった。つまりこれは、一般的な対人関係における「無意識」と「意識」が、KinKi Kidsのふたりにおいてはほとんど真逆の意味を持っているということだ。彼らは無意識だと合いすぎる、個の境界線が溶けてシンクロしそうから、意識して差別化し、互いを個として尊重する。堂本光一はそれを「無意識の中の意識」と表現したが、このふたりのケミストリーが明かされたのが今回の『関ジャム』の最大のクライマックスだったと個人的には思った。また、ふたりで曲を合作する際に堂本剛は堂本光一に歌ってほしい詞を、堂本光一は堂本剛ならどう歌うかを想像しながら楽曲を作るという話も出たが、こうして自分のクリエイティヴィティを相手に対象化していくある種の客観性が、結果としてパーソナルな自分自身に立ち戻ってくる、それが「ふたりでひとつ」の唯一無二のKinKi Kidsを象っていくというのも納得のいく話だった。

ただし、ひとつ確認しておくべきは、彼らは双子やクローンのように似ているから重なるわけではない、ということだ。名字が同じであること、声質が似ていること、それ以外の点においては堂本剛と光一はむしろ似ていないことのほうが多いからだ。たとえば最新シングル曲“The Red Light”を提供した久保田利伸がふたりを「ファンク（剛）とロック（光一）」と喩えたように、そもそも音楽性の嗜好にはかなりの差がある。共に作詞作曲からポストプロダクションに至るまでマルチな音楽スキルを持っている前提に加え、堂本光一は豊富な舞台経験も含め、エンターテイナー＆パフォーマーとしての際立った才能の持ち主でもあり、堂本剛は様々な音楽プロジェクトを筆頭に、ギタリスト＆シンガーとしての際立った技量の持ち主でもある。その差異は、ふたりのソロワークにも明らかに見て取れるものだ。しかし、それであってなお、KinKi Kidsはこのふたりでなければひとつにはならないのだ。

双子のように、クローンのように、生まれながらにシンメトリーなふたりがたまたま出会った、それがKinKi Kidsの凄さなのではない。むしろ、たまたま同じ姓の下に生まれた赤の他人であるふたりが、そのシンメトリー性にも拘らず、なぜか「ふたりぼっち」の状況においては運命の片割れのようにぴったりと重なり合う、それこそがKinKi Kidsというデュオの奇跡なのだと、改めて気づかされた『関ジャム』だった。（粉川しの）

⑤ 調査結果を基に分析

KinKi Kids 2人若い頃も他のジャニーズアイドル同じような活動していましたが、「Love Loveありして」という番組で吉田拓郎と坂崎幸之助と出会って、ギターを弾き始めました。番組で2人も作曲作詞し始めて、「好きになってく愛してく」という曲が出てきて、日本のアイドルグループとして初めて自作の作品がオリコンランク1位をもらいました。

自身で音楽を作り上げる過程に興味を深めて、だんだん自作品が出てきます。それで、2002年堂本剛自身が作詞・作曲・プロデュースを担当した「街 / 溺愛ロジック」というシングルでソロデビューしました。2006年堂本光一も作曲を担当していた「Deep in your heart / +MILLION but -LOVE」でソロデビューしました。

これはKinKi Kidsと他のグループ一番違うところだと思います。他のグループのメンバーもソロデビューしていましたが、こんなに本格ではありませんでした。特に堂本剛、本人の意向により、KinKi Kidsの持つラジオ番組ではソロの楽曲を一切流さない、KinKi Kids公式サイトやファンクラブ会報誌等への活動掲載を行わない、KinKi Kids名義で出ている雑誌（アイドル雑誌など）では話題を出さない、レコード会社やコンサート事務局を事実上分社扱いにするなど、KinKi Kids名義の活動とは完全に切り離した活動を行っています。年間の行事は基本的11月前各ソロ活動していく、年末はグループ活動します。シングルやアルバムは不定期で出ています。

そして、本人がKinKi Kidsらしいものをやらせても、漠然としますが、なんとなく共通認識があります。音楽的なら、KinKi Kidsらしいものは何を歌っても暗い曲になるということです。「硝子の少年」からKinKi Kidsの曲はジャニーズっぽくなくて、「哀愁」を感じる楽曲が多いだと言われています。しかし、各ソロの時は別のスタイルで活動します。光一は舞台を中心してソロしていく、剛はソウルやファンクなど色々な種類の曲を作っています。

⑥ まとめ

二人グループはジャニーズの中に前解散したタッキーと翼とKinKi Kidsしかいなくて、珍しい存在です。他のグループに比べたら、一番違うところは本格的な音楽ソロ活動と独特な哀愁感ある歌声ということです。他のジャニーズアイドルの曲は基本的明るくて、可愛くて、キラキラという感じが多いですが、KinKi Kidsはデビュー曲「硝子の少年」から、よくジャニーズっぽくないと言われています。そして、二人はソロ活動の時、それぞれ違う柄なんですが、KinKi Kidsとして活動する時、「ふたりでひとつ」というイメージがあります。以上は私が研究したKinKi Kidsと他のジャニーズアイドルの違いです。